

入選

毎日は小さな幸せがたくさん！

静岡県 浜松西高等学校中等部

一年 岩本 柚季

作文を書くにあたって、

(親切ってどんなことを言うんだっけ。あれ、私の毎日に親切ってあるのだろうか?)

と、不安が押し寄せてきた。そこで、母に思い切って相談してみた。

「親切ってなに？」すると、

「じゃあ、あなたはいつも、どんな親切をしているの？」

と逆に尋ねられた。本当に困った。日々の中で私はどんな親切をしているだろう。

親切とは、なにか困っている人を助けてあげることだと思っている。なんとなく、バスでお年寄りに席を譲ってあげたり、小さな子どもがいるお母さんを助けてあげたり、とか思いつくことはあるけれど。

コロナ禍で、人とほとんど接触しない毎日。家で勉強して、バイオリンとピアノを弾いて、読書をして、テレビを見て寝る。同じような日々が続いている。感染者が増えていくと、部活動もなくなり、どんどん外出できなくなっていく。そんな中で、私は親切な日々を送れているのだろうか。

「なにもできていない。」

と母に告白した。なんだか、とっても寂しい気持ちになった。

すると、母は驚いた顔をして、不思議なことを言い出した。

「あなたは、割と親切な毎日を送っていると思うけどなー。だって、いつも家族を思いやって、過ごしてくれているじゃない。」

そう言われても、ピンと来なかった。そんな私を見て、母はいくつもの私の毎日の親切を教えてくれた。帰宅後、妹たちを家に入れてから自分が中に入ること。いつも甘えてくる妹たちに、優しく教えること。母が忙しいときは、なにも言われなくても察して動くこと。ご近所では、回覧板が濡れないように、置き場所を選ぶこと。ごみがカラスに荒らされていたら、片づけること。

「誰かが、してもらって助かった、嬉しかったと思うことができるあなたは、毎日親切を無意識にできていると思うよ。人のために心を砕いてあげられるあなたは、親切な人だと思うわ。」

はっとした。長い雨が降ったあとに、ぽつと虹が出たような、そんな気分だ。

そういえば、この前雨上がりに、二つ虹が重なって出ていて、嬉しくなってすぐに妹たちを呼んだ。二人ともすごく喜んでいた。

いつのまにか、ずっと一人ぼっちでいた気分になっていたけれど、全然一人じゃなかった。私がワクチンの副反応で苦しんでいるときも、4歳の妹が「お姉ちゃん大変！」と、ぬいぐるみとともにそばにいてくれた。

10歳の妹も心配して、あれこれと世話をしてくれた。妹たちの気づかいを感じ、温かくなった。

私はたくさんの姉妹の親切の中で、コロナ禍でも幸せな気持ちにさせてもらっていることに気づけた。